

政策分野	002	教育	政策項目	002	生涯教育	施策	001	幼児・家庭教育の支援	担当課	社会教育課社会教育グループ
番号	計画事業名							区分	事業開始年度	事業終了年度
042	家庭教育の機能を高める啓発・支援を実施します。							継続	令和5年度	令和12年度

	指標項目	基準値(R3)	前期(R8) 目標値	後期(R12) 目標値	年度ごとの実績値				達成率	指標設定の考え方
					令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
活動 指標	I 事業実施数 (単位:回)	2	2	2	2	2	0		0%	I 講演会等の実施回数
	II 情報発信回数 (単位:回)	0	2	2	2	2	0		0%	II マナビイ等での情報発信の回数
成果 指標	I 事業参加者数 (単位:名)	57	60	60	123	70	0		0%	I 事業等への参加者数

【担当課評価】

項目	事業把握
主な事業実績	上期にて事業未実施。
施策の分析 (目標達成・未達成 に関する要因分析)	下期にて福祉課と連携しながら事業の企画・実施する。
課題・問題点	なし

今後の展開・方向性 (国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、 重点的・優先的に取り組む施策等)	講座内容がニーズに合ったものとなるよう、情報収集しながら事業を実施していく。
--	--

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価 (担当課長)	①計画通りに進める 親子参加型など事業内容について、福祉課と連携しながら子育て世帯に魅力的な事業を企画を検討し、家庭教育の推進のため、より多くの参加者が得られるよう努めること。
2次評価 (副町長)	※評価対象外
外部評価	※評価対象外
最終評価 (町長)	※評価対象外

政策分野	002	教育	政策項目	002	生涯教育	施策	002	青少年教育の推進	担当課	社会教育課社会教育グループ
番号	計画事業名							区分	事業開始年度	事業終了年度
043	自然・社会体験など、青少年の体験活動の機会を提供します。							継続	令和5年度	令和12年度

	指標項目	基準値(R3)	前期(R8) 目標値	後期(R12) 目標値	年度ごとの実績値				達成率	指標設定の考え方
					令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
活動指標	I くりやまキッズクラブ 実施回数 (単位: 回)	8	10	10	9	8	4		40%	I 年間の実施回数
成果指標	I くりやまキッズクラブ 参加者延名数 (単位: 名)	118	180	180	133	176	61		34%	I 各回の参加者の合計

【担当課評価】

項目	事業把握
主な事業実績	田植え・芋植え体験→15人 田んぼの除草・昆虫採集→15人 里山宿泊キャンプ →17人 キッズ農園稲刈・いも収穫→14人
施策の分析 (目標達成・未達成に関する要因分析)	実施率は比較的良好であり、悪天候により、雨天プログラムの実施が1回、中止・延期開催が1度あったが、概ね天候に恵まれ中止が無かったことによるものと考ええる。 参加者数が比較的少なく、5月の参加者募集申込で昨年より11人減少したこと、雨天中止による延期開催で急遽日程再調整実施をした影響も大きいと考えられる。
課題・問題点	参加申込人数が減少したことから、募集周知の方法を工夫する必要がある。 新規で参加いただいた方も数名いるが、3～4年続けて参加し続けてくれている方もいる。実施内容について昨年と変更した部分もあるが以後もマンネリ化を防ぐ必要があり、変化を加え続ける必要がある。

今後の展開・方向性 (国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、重点的・優先的に取り組む施策等)	参加してくれている方からは自然体験活動を主とした内容に価値を感じていただいている。 今後、栗山の自然を活かしたバリエーションある体験を提供できるよう、新たな内容検討も必要と考える。 一方で全てを変える必要があるわけではなく、田植え～稲刈りの活動など土台となるハサンベツ里山を主とした活動はベースに据えていきたい。学校で行うふさと自然体験教育の内容との差別化を図る。
--	--

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価 (担当課長)	④改善を検討 (その他) これまでの事業を継承しつつ、新たな体験活動について子どもたちが興味・関心のある事業内容を検討し、多くの子どもたちの「生きる力」を育成すること。 また、より多くの子どもたちの参加が得られるよう、事業内容に加え、周知方法も併せて検討すること。
2次評価 (副町長)	④改善を検討 (その他) 一次評価のとおり。
外部評価	※評価対象外
最終評価 (町長)	④改善を検討 (その他) 二次評価のとおり。

政策分野	002	教育	政策項目	002	生涯教育	施策	002	青少年教育の推進	担当課	社会教育課社会教育グループ
------	-----	----	------	-----	------	----	-----	----------	-----	---------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
044	青少年育成会活動を支援します。	継続	令和5年度	令和12年度

	指標項目	基準値(R3)	前期(R8) 目標値	後期(R12) 目標値	年度ごとの実績値				達成率	指標設定の考え方
					令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
活動指標	I 運営委員会の開催数 (単位:回)	7	8	8	4	6	3	38%	I 活動に係る協議・育成会の活性化につながる会議の開催	
	II 青少年育成会事業の実施 (単位:回)	5	8	8	10	8	3	38%	II リーダー研修・かるた大会等事業の実施回数	
成果指標	I 青少年育成団体数 (単位:団体)	35	35	35	35	35	35	100%	I 単位育成会の数	
	II 青少年育成会事業への参加 (単位:名)	98	160	160	167	192	108	68%	II リーダー研修・かるた大会等への参加者数	

【担当課評価】

項目	事業把握
主な事業実績	【6/14.15リーダー研修（初級・上級）】参加者49名(内シニア6名) くりやまウォークラリー参加に向けた「仲間づくり」をテーマにプログラムを実施。 【6/29 4町合同青少年リーダー研修（中級）】参加者24名(内栗山6名) テント設営、BBQなどアウトドア活動を通して他町との仲間づくり、リーダー養成プログラムの研修に参加。 【7/12.13リーダー研修（初級・上級）】参加者35名(内シニア5名) 防災をテーマに段ボールシエルトークや避難所運営ゲームDoHUGを応用したロールプレイングなどのプログラムを実施。
施策の分析 (目標達成・未達成に関する要因分析)	運営委員会の開催については育成会事業の協議や、その他議題が発生した場合に招集し開催をしている。今後も育成会の活性化や課題解決に向けて取り組んで行く必要がある。育成会事業への参加については、各学校への説明会の実施や学校からの連絡配信アプリteturuを活用し周知の強化を行っている。6/14.15の第1回、7/12.13に行った第2回リーダー研修は姉妹都市子ども交歓のついで参加者の参加必須事業としており、一定数の参加者の確保につながっている。
課題・問題点	繁忙期等の理由により事業運営の際に育成会役員・委員の参加が少ない。 子どもの減少などにより各地区の育成会活動が困難になっている。

今後の展開・方向性 (国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、重点的・優先的に取り組む施策等)	リーダー研修会などの事業内容については、魅力的な研修内容の検討継続と地区・単位育成会のニーズを正しく把握し支援を行っていく。より良い育成会組織となるよう各地区育成会役員と連携をとり、組織のあり方について検討を行っていく。
--	--

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価 (担当課長)	①計画通りに進める 引き続き、子どもたちに魅力的な研修内容を検討し、健全な青少年の育成を図るため、育成会事業の活性化に努めること。 また、少子化に伴う各地区での育成会活動が困難となっている現状を踏まえ、各地区育成会役員等と連携しながら、地域づくりのために単位組織のあり方について検討を行っていくこと。
2次評価 (副町長)	※評価対象外
外部評価	※評価対象外
最終評価 (町長)	※評価対象外

政策分野	002	教育	政策項目	002	生涯教育	施策	003	成人・高齢者教育の推進	担当課	社会教育課社会教育グループ
番号	計画事業名							区分	事業開始年度	事業終了年度
045	高齢者の喜びと生きがいを感じる学びの機会を提供します。							継続	令和5年度	令和12年度

	指標項目	基準値(R3)	前期(R8)目標値	後期(R12)目標値	年度ごとの実績値				達成率	指標設定の考え方
					令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
活動指標	I いきいきすくーる学習回数（単位：回）	1	6	6	6	7	5	83%	I いきいきすくーる：学習機会の実施回数（視覚覚教育、日帰りバス研修、学校祭、宿泊研修、講演会、クラブ活動、文集発刊等）	
	II いきいきすくーる「いきいき塾クラブ活動」（単位：回）	2	2	2	2	2	2	100%	II いきいき塾：①の受講生の内、約20名を対象に学習機会を提供	
成果指標	I いきいきすくーる参加者数（単位：名）	388	350	350	276	297	193	55%	I いきいきすくーるに参加した延べ人数（基準値H31年度：コロナ前の実績）	
	II いきいき塾クラブ活動参加者数（単位：名）	15	20	20	20	17	15	75%	II いきいき塾への参加者数	

【担当課評価】

項目	事業把握
主な事業実績	①開講式・講演会（（幸せお金力を鍛える家計管理）→50人、②学習会（リアンヴィレッジなんそら）→48人、③夏のバス研修（堀川かまぼこ工場・苫小牧市科学センター）→51人、④ものづくり体験（陶芸体験）→10人、⑤学校祭（クラブ発表・フラスイートビー）→34人
施策の分析 （目標達成・未達成に関する要因分析）	ものづくり体験（陶芸体験）は少人数ではあったが満足度の高い講座であった。
課題・問題点	各学習に参加する人が固定化しており、この2～3年で受講生が代替わりしている。 バス研修の参加率は良好だが、ピンポイントでそこだけの参加者が少なからずいる。

今後の展開・方向性 （国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、重点的・優先的に取り組む施策等）	協力委員や受講生の意見を反映させた学習会の開催。 町民講座との共催や、互いの事業への参加を促進させる。
--	--

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価 （担当課長）	①計画通りに進める 高齢者への学びの機会と交流の場を提供するため、参加者の意向や時代に即応した事業内容となるよう検討すること。
2次評価 （副町長）	※評価対象外
外部評価	※評価対象外
最終評価 （町長）	※評価対象外

政策分野	002	教育	政策項目	002	生涯教育	施策	003	成人・高齢者教育の推進	担当課	社会教育課社会教育グループ
番号	計画事業名							区分	事業開始年度	事業終了年度
046	町民の多様な学びの機会づくりを実施します。							継続	令和5年度	令和12年度

	指標項目	基準値(R3)	前期(R8) 目標値	後期(R12) 目標値	年度ごとの実績値				達成率	指標設定の考え方
					令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
活動指標	I 開催講座数(単位:回)	5	6	6	8	10	4		67%	I 町民講座の開催数
	II 全開催日数(単位:日)	7	10	10	12	13	5		50%	II 連続講座を含めた全講座の開催日数
成果指標	I 参加者名数(延べ)(単位:名)	125	200	200	210	412	38		19%	I 町民講座の参加者人数
	II 参加者満足度(単位:4段階)	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.6		94%	II 町民講座参加者アンケートの満足度(4段階)

【担当課評価】

項目	事業把握
主な事業実績	①4/17(くりやまアーカイブ第五幕くりやまの自然)→20人、②5/27(幸せお金力を鍛える家計管理)→0人、③7/29(エゾシカの鹿角キーホルダーづくり) 小人→10人 大人→中止、④8/26(ものづくり体験陶芸体験)→8人
施策の分析 (目標達成・未達成に関する要因分析)	町民講座単独ではなく他事業との共催で参加者を獲得する必要があるが、全世代向けの事業実施は難しい。
課題・問題点	R7よりNo.56工房体験事業を町民講座と統合。 鹿角キーホルダーづくりでは小人と大人それぞれに企画したが周知不足等により周知となってしまった。 大人向けと小人向け講座は分けて企画した方が良かった。

今後の展開・方向性 (国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、重点的・優先的に取り組む施策等)	世代に応じた求められる講座の開催し町民の参加を促していきたい。
--	---------------------------------

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価 (担当課長)	①計画通りに進める 幅広い年齢層に興味・関心のある内容を検討するとともに、年齢層別の内容の検討など、時代に即応した多様な学びの機会を提供すること。
2次評価 (副町長)	※評価対象外
外部評価	※評価対象外
最終評価 (町長)	※評価対象外

政策分野	002	教育	政策項目	002	生涯教育	施策	004	図書館活動の推進	担当課	図書館
番号	計画事業名							区分	事業開始年度	事業終了年度
047	町民の読書活動を支援します。							継続	令和5年度	令和12年度

	指標項目	基準値(R3)	前期(R8)目標値	後期(R12)目標値	年度ごとの実績値				達成率	指標設定の考え方
					令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
活動指標	I 購入冊数(単位:冊)	5,800	5,900	5,900	5,294	5,737	2,004		34%	I・II 図書館施設の規模等を考慮し設定
	II 蔵書数(単位:冊)	159,479	160,000	160,000	159,213	160,251	159,419		100%	
成果指標	I 利用者数(単位:人)	26,000	35,000	35,000	28,796	24,780	14,092		40%	I・II 利用実績をもとに設定
	II 貸出冊数(単位:冊)	80,000	90,000	90,000	76,229	73,514	32,949		37%	

【担当課評価】

項目	事業把握
主な事業実績	ミニクプロジェクト司書派遣事業72回、学校専門司書派遣85回、木曜おはなし会12回、移動図書館48回、夜間開館25回、展示会2回、映画会12回
施策の分析 (目標達成・未達成に関する要因分析)	昨年同期と比べると利用者数は伸びているが貸出冊数が減少している。図書館の利用の仕方が滞在型にシフトしている表れだと思われる。
課題・問題点	静かに読書や勉強をしたい方、友人同士で話したい方、色々な使われ方があってよいと思う。涼み処として来館される方に貸出に繋げる取り組みが必要ではないか。

今後の展開・方向性 (国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、重点的・優先的に取り組む施策等)	これまでの読書するだけの場から、色々な使われ方や滞在のあり方があってよいと思う。社会教育事業や他事業所との連携を図ることで利用者拡大に繋げる。
--	---

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価 (担当課長)	①計画通りに進める コミュニティスペースを活用した社会教育活動などの展開により利用者の増に努めるとともに、図書館を拠点とした生涯教育を推進すること。
2次評価 (副町長)	※評価対象外
外部評価	※評価対象外
最終評価 (町長)	※評価対象外

政策分野	002	教育	政策項目	002	生涯教育	施策	005	社会教育施設の整備	担当課	社会教育課社会教育グループ
番号	計画事業名							区分	事業開始年度	事業終了年度
048	老朽化した社会教育施設の改修などを計画的に実施します。							継続	令和5年度	令和12年度

	指標項目	基準値(R3)	前期(R8) 目標値	後期(R12) 目標値	年度ごとの実績値				達成率	指標設定の考え方
					令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
活動指標	I 計画的な施設改修箇所数 (単位: 箇所)	6	3	8	10	7	5		167%	I 工事・修繕した箇所数 (基準値R3)
	II 施設の修繕ヶ所の確認調査 (単位: 回)	6	3	8	8	7	5		167%	II 指定管理事業者等と連携した修繕計画の打合せ
成果指標	I 社会教育施設数 (単位: 箇所)	3	1	3	4	2	3		300%	I 改修した施設数
	II 社会教育施設利用者数 (単位: 人)	64,448	70,000	70,000	85,587	81,070	24,516		35%	II 社会教育施設の利用者数 (基準値R3)

【担当課評価】

項目	事業把握
主な事業実績	①南部公民館：手すり取付取替修繕314千円 ②農村環境改善センター：暖房用熱交換器洗浄部品交換407千円 ③カルチャープラザ：空調機系統自動制御機器更新1,210千円 駅舎棟出入口鉄骨底塗装工事457千円 駅舎棟出入口引戸修繕741千円
施策の分析 (目標達成・未達成 に関する要因分析)	指定管理者・建設課とも協議しながら修繕内容を検討しているが、当初計画にはない経年劣化による修繕が必要な箇所が発生している。 今後も経年劣化による修繕箇所は増えていくことが予想されるが、施設管理事業者とも協議し計画的に実施できている。
課題・問題点	経年劣化による修繕箇所は年々増えていくことが想定され、今後大規模な改修が必要になることも考えられる。

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価 (担当課長)	①計画通りに進める 町内の社会教育施設の長寿命化を図るため、施設改修を計画的に進め、必要に応じ施設の大規模改修を検討していくこと。
2次評価 (副町長)	※評価対象外
外部評価	※評価対象外
最終評価 (町長)	※評価対象外

今後の展開・方向性 (国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、 重点的・優先的に取り組む施策等)	指定管理者・建設課とも協議した中で危険性・緊急性のあるものなど優先度を考えながら施設の改修を実施し、町民に不便さを感じさせない維持管理及び快適な施設運営を行ってきたい。
--	--

政策分野	002	教育	政策項目	002	生涯教育	施策	006	ふるさと教育の推進	担当課	社会教育課社会教育グループ
番号	計画事業名							区分	事業開始年度	事業終了年度
049	地域と学校が連携・協働した教育活動を推進します。							継続	令和5年度	令和12年度

	指標項目	基準値(R3)	前期(R8) 目標値	後期(R12) 目標値	年度ごとの実績値				達成率	指標設定の考え方
					令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
活動指標	I 企画事業数 (単位: 回)	0	2	2	2	0	1		50%	I ふるさと教育交流会等企画事業の実施回数
	II 会議開催日数 (単位: 日)	3	5	5	6	5	3		60%	
成果指標	I 参加者人数(述べ) (単位: 人)	0	200	200	61	0	0		0%	I 企画事業への参加者数
	II 参加者満足度 (単位: 5段階)	-	4	4	5	0	0		0%	II 参加者の満足度 (5段階評価)

【担当課評価】

項目	事業把握
主な事業実績	地域の取り組みとして栗山地区育成会の再編のため地域住民等が子どもたちに関わる事業を検討。 地域の教育力の向上として通学合宿の実施を10月に予定していたが参加者が集まらず、別事業を12月に実施することで協議中。 (宿泊事業をやめ、日帰りで事業を実施。)
施策の分析 (目標達成・未達成に関する要因分析)	つながりのある地域づくりとして、栗山地区育成会の活性化を図るために、コロナ前に実施していた参加者も多かった通学合宿事業の実施を企画したが、参加希望者が少なく事業を中止しており、コロナ後の地域と子どもたちの希薄化が進んでいると感じる。また、会議等で、家庭の中でも宿泊を伴う事業に対する抵抗感が強くなっているという意見もでており、活動内容の再検討が必要である。
課題・問題点	地域の人と学校の先生とが協議する場として学校運営協議会があるが、そこでの議論が地域に広がっていないため、一体となって進めて行く必要がある。

今後の展開・方向性 (国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、重点的・優先的に取り組む施策等)	文科省で進めている地域学校協働活動の取り組みに沿って、町内のニーズを把握しながら、子どもの成長を軸として、地域と学校が連携・協働した教育活動を推進する。 また、学校運営協議会において体制の見直しを進めており、本事業も一体となって新しい体制を検討する。
--	--

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価 (担当課長)	①計画通りに進める 変化する町民ニーズを的確に把握し、子どもの成長を促す事業を地域と学校が連携・協働しながら進めること。 また、文科省が進める学校運営協議会と地域教育協議会の一体化に向け、関係団体等と協議を進めること。
2次評価 (副町長)	①計画通りに進める 一次評価結果に加え、前年度において改善を図った内容の進捗状況が確認できるよう指標項目についても見直すこと。
外部評価	※評価対象外
最終評価 (町長)	①計画通りに進める 二次評価のとおり。